

令和 5 (2023) 年度 栃木県立宇都宮東高等学校 学校評価報告書

教育目標	1 博く深く知識の習得に努め、自主積極的に物事を究明し、正しい判断力を養う。	今年度の重点目標	「一人ひとりの生徒を中心に据えた品格と魅力のある学校文化の創造」					達成度	アンケート・教職員評価の肯定的意見
	2 心身を鍛練して、不撓不屈、堅忍持久、活動的にして、実践力に富む道徳性を養う。		1 「正剛寛」の実践指導による、大志を抱いて未来を創造できる生徒の育成						
	3 自他の敬愛と相互協力の理念に徹し、責任を重んじ規律を守り、協調融和の精神を養う。		2 「授業第一主義」による学力の向上と読書指導の推進						
	4 自己の育んだ一切の他力に深く思いを致し、感恩奉仕の信情を高める。		3 安全性の確保の上に立った基本的生活習慣の確立と学校行事・部活動等の活性化						
			4 リーダーシップ・フォロワーシップ及び寛容性・対話力の育成						
			5 教育改革の流れを踏まえた、知的好奇心を喚起し探究心を養うための学習指導及び進路指導の充実						
			6 中高一貫教育校としての体制の充実						D・・・40%未満

学 校 自 己 評 価								学校関係者評価	R 6 (2024) 年度に向けた改善策
現 状 と 学 校 評 価 実 施 計 画					達 成 状 況			【全体】 ・全体として高い評価を得ており、良い教育活動が行われている。 ・昨年より評価が下がったところについては、危機管理の視点で再考してみてもどうか。 ・教員と保護者の評価には乖離があり、学校での様子が保護者に上手く伝わっていないことも考えられる。 ・中高の一体感については、今後、細かなところまで中高の教員の意識をそろえていくことも大切である。 【情報の発信】 ・学校のホームページなどで、学校の教育活動についての情報発信を良く行っている。 【学校の魅力】 ・今後の中等教育学校へ向けて、学校全体で宇東生のあるべき姿や、大学の先を見据えた教育など、学校の特色を再検討することも必要である。	【全体】一人ひとりの生徒を中心に据え、学校全体としての組織的な指導を継続していく。 今後もきめ細かく面談を行い、生徒の自己実現をサポートしていく。 引き続き特別な支援を要する生徒の情報共有に努め、組織的な指導の充実を図る。 個々の学力に応じて、個別最適な学習指導を行っていく。 システムとして生活の中に読書を組み込む方法を考える。家庭ではそれを評価してもらう。 引き続き交通マナー向上とヘルメット着用を促す等安全指導に力を入れる。併せて保険加入の徹底を図る。 保護者との情報共有の方法を工夫するとともにより多方面の活動の様子を伝えられるよう努める。 教員間で共通理解のもと学校生活全般において、リーダーやフォロワーを意識させる指導を継続して行っていく。 互いを理解し、認め合う気持ちを育む教育のための環境を継続して整えていく。 生徒の意欲を喚起し、深い学びにつながるような授業の工夫・改善を継続して行っていく。 大学の先も視野に入れた丁寧な進路指導を充実させていく。 「中高交流の時間」を継続するとともに、学校行事や部活動などにおいて中高生が共に活動する機会を増やしていく。
重点	生徒の現状と課題	評価項目	主な方策	評価指標	アンケート		達成状況と課題		
					生 徒	保護者			
1	・自己実現に向けて前向きに努力している ・悩みを抱えた繊細な生徒の個別対応が必要である。	①個人面談の充実	・学校生活の充実と自己実現のためきめ細かく面談を行う。	生徒・保護者のアンケート結果を参考にした教職員の学校評価	A	A	A	・今後もきめ細かく面談を実施し、生徒の状況把握に努める。	
		②個に応じた適切な指導	・特別な支援を要する生徒の情報共有に努め適切な指導を行う。		A	B	A	・悩みを抱える生徒一人ひとりに関する情報を全職員で共有し、組織による指導に努める。	
2	・授業態度は良好だが、学力差が大きい傾向にある。 ・家庭において活字を読まず、読書的话题を家族と共有していない生徒が多い。	①各層に応じた適切な指導	・各学力層の状況を的確に把握し、各層に応じた学力向上のための支援を行う。		A	B	A	・生徒の学力を的確に把握し、各層に応じた学習支援を継続して行う。	
		②読書の習慣化の継続指導	・学校と家庭が連携して読書環境を整え、読書意欲を喚起する。		C	C	A	・生徒の読書意欲、家庭との連携が共に不十分。喚起の方法に工夫が必要。	
3	・防犯意識、交通マナー向上についてはより一層の指導が必要。	①安全性の確保と交通マナーの向上	・防犯意識を高める。交通マナーの向上に加えヘルメットの着用を促し安全意識を高める。		A	A	A	・引き続き事故は減少傾向にある。今後もヘルメットの着用促進と保険加入の徹底を図る。	
		②安全性の確保と特別活動の活性化	・活動の様子や成果を保護者と共有することで、個々の生徒の達成感を高める。		A	B	A	・生徒会 Blog 等からの発信で多くの生徒の達成感につながるよう保護者との情報共有に努める。	
4	・学校生活の様々な場面でリーダーの存在と役割を意識できるような指導を工夫する必要がある。 ・様々な活動・経験を通して、寛容性・対話力が醸成されている。	①リーダーとしての資質の向上	・学校生活の様々な活動においてリーダーだけでなくフォロワーとしての資質も育成する場面を設け適切な指導を行う。		B	B	A	・学校行事だけでなく、授業を含めた日常生活においてリーダーやフォロワーを意識させるような指導を継続する。	
		②相互理解につながる指導環境の整備	・多様な他者と交流できる環境を整備し、寛容性・対話力を醸成する。		A	A	A	・様々な交流の場を通して、寛容性・対話力が醸成されているので、これを継続する。	
5	・知的好奇心が高い生徒が多い。それを深い学びにつなげる授業の工夫が必要。 ・志望の実現に向けて、前向きに努力する生徒が多い。	①深い学びにつながる指導の継続	・生徒の意欲を高め、深い学びにつながる授業の実践と改善を図る。		B	B	A	・授業公開などを通して継続して授業の工夫・改善を図り、生徒の意欲を喚起する。	
		②個々の進路志望に応じた指導の充実	・共通認識のもとで、生徒の実態に応じた適切な指導を行う。		A	B	A	・情報を共有し、生徒の進路希望実現に向けて、丁寧な指導を継続する。	
6	・中高一貫教育校としての体制はできているが、中高生が共に学び、活動する機会を増やすことが課題。	①中高連携の工夫と改善	・全学年の中高生が交流する時間を新たに設定するとともに、様々な場面で中高の生徒が交流する機会をつくっていく。		B	B	B	・今年度は初めての試みとして「中高交流の時間」を2回実施したが、良い交流の機会となったので、今後も継続していく。	